

ハーベスト・セミナー  
進化論か創造論か

完璧なものとして創造された  
世界・いのち・人間

講師：安藤和子博士

本テキストの後半には、セミナーで出た多数の質問に対する詳細な回答が掲載されています。

ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

# 『完璧なものとして創造された世界・いのち・人間』

2005.7.18 & 19

## 創世記

1:1 はじめに神が天と地を創造した。

1:31 神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは非常によかった。

**セッション1. 『喜んで、輝いて、生きる！ 進化論で大丈夫？』 p. 2**  
—あなたは神様のかたちに造られた—

**セッション2. 『創造の順序』 p. 6**  
—時間・自然法則は創造主によって定められた—

**セッション3. 『6日間・144時間の創造』 p.10**  
—創造の1日が24時間でなかったなら？—

**セッション4. 『いのちの創造：種類にしたがって』 p.14**  
—厳密に設けられた種類間の垣根—

**セッション5. 『神のかたちに造られた人：  
土地のちり・アダムのあばら骨』 p.18**  
—アダムとエバの体の成分は異なっていた？—

**付 録 . アンケートの質問・要望への応答 p. 1～8**

# セッション1. 『喜んで、輝いて、生きる！ 進化論で大丈夫？』

—あなたは神様のかたちに造られた—

進化論先進国・日本・・・進化思想は日本列島をむしばんでいる

\* 日本人は絶対者・創造主を知らず、心が飢えて貧しい(マザー・テレサ)

触らぬ神に祟りなし・・・偶像礼拝だと気付かずに何でも拝む。干支・のし・水引に縛られた日本列島  
日本の年中行事、日々の生活の中に冒流的慣習・進化思想が、極めて自然に融け込んでいる。

進化論とは？

\* 進化論(進化仮説)の大前提

1) 最初の生物、ひとつの細胞は「偶然に、自然発生した」。「無神論・創造主否定」

2) 宇宙・地球が出来てから大変革は起こっていない(斉一説)

\* 進化論仮説とは？

1) 40－60 億年という無限の時間の流れの中で

2) 偶然に生じた一つの細胞から、

3) 種類の垣根を乗り越えて単細胞から人間にまで進化した。いかなる道筋、いかに無数の段階や枝分かれを仮定したとしても、骨子は、偶然が積み重なって、単細胞→蛙→爬虫類→鳥→哺乳類→サル、そして人になったという仮説。

4) 適者生存・弱肉強食。

**\* 様々な「進化系統樹」**

基本的考え方：自然発生した一つの細胞から、何回か枝分かれをして、生存に不適切な、弱く下等な生物は戦いに敗れて滅び、より高等な生物へと進化。描き方は各種であるが同じ基本的考え方に立つ。

発掘される化石のデータ、現存の生物のデータなど情報の増加に伴って、系統樹は樹木のような枝分かれが不可能になってきた。化石のデータは「変化が一直線であり、種類が変わる枝分かれはありえない」ことを指し示している。

\* 数多く目にする各種生物は変化している。たとえば、現存のイヌという種類の動物は 130 種もいる。  
「イヌは進化してきたし、今も進化し続けているのではないか？」という反論！

**科学信仰**

\* 「科学は正しい」「科学は万能」「進化論は科学である」という三段論法のマインドコントロール

\* 「聖書は非科学的」「聖書の記述は科学的に証明された部分だけ正しい」という信仰

科学とキリスト信仰は矛盾・対立するのか？

中高大学生が学ぶ科学の仮面を被った進化の証拠:誤った証拠

\* 始祖鳥:始祖鳥は、は虫類と鳥の中間型か？

\* 馬の進化:ヒラコテリウムの化石、1841年化石発見。ヒラックス(岩ダヌキ)に似ている。

\* ヘッケルの「個体発生は系統発生を繰り返す」という仮説

\* 人の進化図

\* 進化を証明する科学的証拠はない、進化学者は進化を証明する証拠を、現在も捜している。

\* 生物は単細胞から進化したのか？今も進化し続けているのか？

生命が自然発生する可能性を考えましょう。科学的に！

\* パスツールの実験結果

\* 理論的に: 生命が自然発生する確率

### 人間にとって重要な三つの命題

	創造論	進化論
(1) 私たちはどこから来たのでしょうか？		
(2) 人間のいのちの意義・目的は何でしょうか？		
(3) 死後、私たちはどこへ行くのでしょうか？		

\* 「進化化」メガネ : 弱肉強食が根底に・ヒューマニズム(人間中心・利己主義・絶対基準がない)

殆どの日本人は、この眼鏡を愛用……

掛けていないと信じている人は、眼鏡の存在に気付いていない。

\* 「聖書」メガネ : 真実を発見・愛されていることを自覚・命の尊さを知り、人生の意義を見いだす

### I テサロニケ 5:16-18

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。

## セッション2. 『創造の順序』

—時間・自然法則は創造主によって定められた—

### 奇問・珍問(1)

\*進化論で答えましょう 「ニワトリが先か、卵が先か？ カエルが先か、オタマジャクシが先か？」

全知全能の創造主の宣言「初めに、神が天と地を創造した」(創世記 1:1 & 詩篇 33:6)

\*「初めに」:「時間」という有限の世界

「天」:全宇宙空間の広がり

「地」:質量・物質・エネルギー

無から呼び出し、存在させられた(無いものを有るものようにお呼びになる方。ローマ 4:17)

科学的に考えよう [1]:宇宙には「はじめ」があった

\*「永遠であり、そのもの自体として存在している宇宙」という概念 ⇔ 進化論

科学的研究 :

『銀河の動き・熱力学の法則・星の一生』から到達した物理学者・天文学者達の結論は…

聖書の証言 :

『創世記1章、箴言 8:27、ヨブ 26:7,10、エレミヤ 32:17、イザヤ 40:22』により裏づけ

科学的に考えよう [2]:地球の年齢

\* 地上の生命をおびやかす宇宙線……

- |                 |                            |
|-----------------|----------------------------|
| 地上の生命を保護する遮蔽物…… | 1 上の水(「大空の上にある水」(創世記 1:7)) |
| (地上 10-50km)    | 2 オゾン層(穴・オゾンホール)           |
|                 | 3 地磁気・・地球は大磁石              |

\* 地球の年齢:地磁気の減衰率からの算出法:

測定法

地球の年齢

磁場の崩壊・短周期彗星の存在・放射性同位元素法 ( <sup>14</sup> C)	.....
放射性崩壊によるヘリウムの量	.....
天地創造の時期: 聖書から概算	.....

科学的に考えよう [3]・[4]:生命の自然発生

実験的にも理論的にも否定

科学的に考えよう [5]:地球が創造された時の酸素の有無

酸素が存在したなら:

酸素が無かったなら:

絶妙なバランスに整えられた大気



## 創造の第三日

\* 基礎工事が完了した地球に大地の創造、その大地に植物の創造 創世記 1:9-13  
かすみを食べて育つ植物……それを食べて生きる動物

\* 緑色植物の重要な意義:「生きるためのエネルギーを動物に供給」「酸素の供給」

## 創造の第四日:太陽・月・星の創造 創世記 1:14-19、エレミヤ 31:35

\* 主の叡智の現れ、太陽、地球と衛星(月)の関係:

①質量の比率 ②相互の距離、位置 ③公転する時間 ④自転する時間 ⑤自転軸と公転軸

## 潮の干満と地球上の生物

\* 海の潮流の海水浄化作用

\* 潮流が支える海の生物の命

\* 潮の干満と月のサイズ・質量・地球と月との距離

## 天と地の諸法則 エレミヤ 33:25

\* 物理法則、物理化学法則、化学法則、生物学的法則など自然界の全法則は、全知全能の創造主によって定められた。

## 水の惑星・地球・・・生命を支える「空気・水・大地・植物」

\* 人を住まわせるために、非の打ち所のないものとして、秩序正しく造られた

\* 現在の地球：表面の 70%は水に覆われている。

表面のでこぼこを無くして平らにすると、地球全体が 2,700m の海底に沈んでしまう。

\* 生命は水に支えられている。

地球上の植物や、動物は、殆どが「水浸し」状態。

## イザヤ 45:18

神のかたち、愛の対象である人を住まわせるために、まず環境が整えられ、秩序正しく非の打ち所のないものとして造られた。

### セッション3. 『6日間・144時間の創造』

—創造の1日が24時間でなかったなら？—

難問・珍問 化石が出来るのに、どのくらいの時間が必要でしょうか？

人を含め、すべてのものは6日間・144時間に創造された

\*「進化論は科学であり、40億年の進化を証明した」のか？

「聖書の創造の記事を進化論で説明出来る」のか？

「イエス様を信じていれば、創造は6日でも40億年でも構わない」のか？

進化論と聖書を調和させる試み

\*有神進化論

\*間隙説

\*1日1時代説

\*見かけの時代説

\*神話説(枠組み説)

\*啓示日説

\*新・漸進創造論

これらの説はいずれも、進化論(⇔ 齊一説)に立ち、

「天地創造の6日間に数多くの動物の苦しみと、死が存在した」という前提に立つ

創世記1章を地質年代や進化論と調和させようとするときに生じる諸問題

1 創造主を主張する聖書と、創造主を否定する進化論は正反対

2「夕があり、朝があった」という言葉と、創5、11章の系図は進化論的長い年月と矛盾

3 天地創造の1週間で、人にも動物にも死はなかった。死はアダムとエバの罪の結果

その他

天地創造の6日間:罪が入る前に、苦しみ・死が入る余地はない

[1] 創造の工程から 第5日:創 1:21 第6日:創 1:25, 1:31

[2] 創造主のご性質から:創 2:3

[3] 苦しみと死の証拠である化石、地質時代の証拠:

[4] 罪によって死が入った・・・創世記の証言 創 1:27～28, 2:17, 3:22

[5] 罪によって死が入った・・・他の聖書箇所による証言 ローマ 5:12, Iコリント 15:21-22

## 間隙説:創世記 1:1 と 1:2 の間に数十億年経過

\* 間隙説の矛盾・・・地質時代の体系を採用して無意識下に進化論支配へ

1. 本質的に進化の体系と同じ。化石によって年代決定。
2. ノアの洪水は斉一説(⇔ 進化論)を根本から否定するもの。

## 1日1時代説:創造の1日は千年～1地質時代(Ⅱペテロ 3:8 の誤用)

\*いのちが創造された第5日が 10 億年、百万年或いは 1 千年としても、本質的に大差はない。

いのちの創造後、5日目、6日目と、延々と苦しみと死が積み重なった。

## 創造の1日は自然の1日、24 時間以外にはあり得ない

「こうして夕があり、朝があった。第一日」という記述(創 1:5, 8, 13, 19, 23, 31)

地球の自転が開始しており、夕があり朝があるという時間の経過は 24 時間

## 恐怖のミステリー

[ I ] 「もし、創造の1日が 1 年だったなら」

1 年に 1 回自転:地球の寒暖差、潮の満ち干、海は・・・地球は・・・

[Ⅱ]「もし、創造の1日が千年だったなら」

第3日：植物の創造、短期間で枯れ果てる。なぜ？

第5日：植物が滅亡して2千年後、水中の動物と飛ぶ動物の創造。動物は餓死。  
地球は動物の死骸の山で、千年経ちました。

第6日：陸の動物と人間の創造。全部餓死し、死骸を積んだ地球が太陽の周りを  
回り続けました。

[Ⅲ]「もし、創造の1日が48時間なら？」

自然界の時計： 昼と夜の長さ、季節、1年の長さ

生物の体内時計： 1日は24時間として認識する時計を埋め込まれている

バイオリズム影響因子：

結語 天地創造は6日間に

科学的に考えると進化論は否定され、6日間144時間の創造が支持される。

宇宙の全法則・地上の全自然法則が統率されて働き、いのちが正常に、美しく維持されている。

## セッション4. 『いのちの創造：種類にしたがって』

— 厳密に設けられた種類間の垣根 —

難問・珍問 植物にいのちがあるの？

生物学的に：

聖書的に：創 1:29、30、 2:9,16、 7:22,23、 8:11

\* 第5日 「いのち」あるものを地上に置く準備が整い、水に住む生き物と空を飛ぶ生き物が創造された。

### 肉、いのち / 植物と動物

\* 共通点：植物及び動物の基本単位は細胞

細胞内容物 …… たんぱく質、脂質、糖などが水に溶けている。

再生産・成長 …… 核酸に伝えられた情報によって再生産。

\* 相違点：

植物・光のエネルギーを有機エネルギーに、動物に使える形にする(糖を合成)

動物・食物として植物が必要。

\* 肉のいのちは血の中に

レビ 17:11「肉のいのちは血の中にある」。I コリント 15:38, 39

いのちを支える血液：動物を特徴づけることの一つ。

生物学的生命と、血液によって支えられる「いのち」とは、本質的に違う。

## 循環系

\* 血液顆粒部分: 赤血球

ヘモグロビン(ヘム鉄が結合)が酸素を背負って全身に運び、炭酸ガスを回収  
: 各種白血球

\* 血液は動く臓器

① 全身の組織に酸素や栄養分を運ぶ

心臓は、酸素や栄養分を豊富に含む血液(肺でガス交換)を受け取り、全身に送り出すポンプ(1分間に約5リットル、1日に5~8トン)

全身の血管は毛細血管までつなぐと地球を二周り半

② 老廃物を運び出す

\* 体を保護。血漿は塩類、たんぱく質等を溶かしており、また酵素の宝庫  
体の様々な働き、分解・合成。止血のメカニズムなど  
免疫反応: 異物を認識して、攻撃。体を護る。

③ 細菌から体を守る

④ 調節: 体温、液性、浸透圧、水分量・血漿アルブミン

## 精巧に形作られたいのち

\* それぞれの種類が特別で美しい、不思議の詰まった生き物がデザインされた。

第5日は飛ぶ生き物、水に住む生き物; 第6日には陸の生き物が創造され、祝福された。



## 種類にしたがって

\*創世記 1:25 神は、その種類にしたがって野の獣、その種類にしたがって家畜、その種類にしたがって地のすべてののはうものを造られた。神は見て、それをよしとされた。

\*それぞれ「種類にしたがって」創造され、「種類にしたがって」繁殖することが創造主にとって重要

創 1:22 『生めよ。ふえよ。海の水に満ちよ。また鳥は、地にふえよ。・・・いのちが満ちよ』

誰でも知っている遺伝学:「ウリのつるにはナスビはならぬ」

亀は亀の子を、フクロウはフクロウの子をなす。

## 「種類」って何？

\*人間の定めた生物分類体系は、「種類」という言葉に統一的に対応ができない。

「種類」は「科」に対応するのか、「属」に対応するのか、「種」に対応するのか？

\* 同じ「ネコ」という名前と呼ばれる動物たち:

脊椎動物「門」—哺乳「綱」—食肉「目」—ネコ「科」

—ネコ「属」—「種」『家ネコ』と『山ネコ』

—ヒョウ「属」—「種」『ヒョウ』と『ライオン』

\*脊椎動物「門」－哺乳「綱」－食肉「目」－イヌ「科」

－イヌ「属」－イヌ、オオカミ、ジャッカル

－ヤブイヌ「属」－

－キツネ「属」－

－タヌキ「属」

\*脊椎動物「門」－哺乳「綱」－偶蹄「目」－イノシシ「科」

－ブタ「属」

－イノシシ「属」

創造主の定義:「種類にしたがって」生めよ・増えよ

\*だから、他の種類と混ざって子孫は出来ない。

再生産するための生理的、生化学的機構が、確実に受け継がれていくようにと企画・設計された。

遺伝情報は染色体のDNAに書かれている:

子孫が出来ないわけは？

結語「種類にしたがって、いのちが満ちよ」

## セッション5. 『神のかたちに造られた人：土地のちり・アダムのあぼら骨』

－アダムとエバの体の成分は異なっていた？－

難問・珍問 カインは誰と結婚したのでしょうか？

われわれに似るように・旧約聖書 創世 1:26、創世 2:7

神のかたち・新約聖書 IIコリント 4:4、コロサイ 1:15、ローマ 8:29

### 土地のちりと人間の肉体の成分

\* 土地のちり・土地を構成する成分：

炭素・・	酸素・・
水素・・	窒素・・
カルシウム、リン、硫黄・・	ナトリウム・カリウム・塩素・・
マグネシウム・鉄・銅・亜鉛・マンガン・セレンなどの金属・・	ヨウ素・・

\* 成人男子：60kgのうち、水：39kg を除いた元素の重さと乾燥質量(21kg)に対する比率

炭素・・・11.6 kg; 55.2 %	酸素・・・ 2.9 kg; 13.8 %	} 18.86 kg	<u>89.8%</u>
水素・・・1.28 kg; 6.1 %	窒素・・・ 3.08 kg; 14.8 %		

カルシウム・リン・硫黄・ナトリウム・カリウム・塩素・マグネシウム	2.01kg	9.68%	<u>99.5%</u>
鉄、銅、亜鉛、セレン、マンガン・ヨウ素	7.9 g	0.038%	<u>99.54%</u>

\*分析結果 土地のちりと人の構成成分はよく似ている

## 二段構えの方法による人の創造

1)創 2:7, I コリント 15:47

2)アダムの助け手

3)創造の「失敗」を修正？

4)完全な成人男子・アダムの肋骨からエバを創造（創世記 2:21, 22）。

\*創造主は、創造の初めから失敗をされた？ 全知全能であることを否定？

**難問・珍問** エバを造るために、主はアダムの肋骨を1本取られた。男の肋骨は女より1本少ないか？

或いは、全人類は最初アダムが造られたときより、肋骨は1本少ないか？

## 土地のちりとあばら骨

\*骨とは：「骨」は死んだもの？ 理科室に立っている石膏の骨格模型

火葬後の、カスカスの遺骨・リン酸カルシウムで代表される無機物、ただの白い粉？

死んだ骨から人が出来る筈はない？

\* 土地のちりと骨とは成分が違うので、アダムとエバを構成していた物質は異なっていたのか？

### あばら骨の正体

\* 骨髄部分以外の、死んでいると思われている骨の分析結果

\* 骨髄

\* 骨膜

### 骨は生きた組織である

### アダムの仲間・外見的姿

\* 外見的な姿・かたちにおいてアダムに似た生き物が何故見つからなかったのか？

### アダムの仲間・内面的本質・主のかたち

\* 頭脳活動、抽象的に考える能力、科学的・哲学的思考(箴言 2:6、詩篇 8:6-8)

\* 時・永遠・宇宙空間を思ふ精神活動 (伝道 3:11)

\* 他を顧みる心・道徳的良心・感謝する心・美や感情を知的・情緒的に理解する能力  
(詩篇 33:4, 5、ピリピ<sup>o</sup> 2: 4、詩篇 9:1、詩篇 32:11)

\* 主を愛する心・礼拝・祈り (1ヨハネ 4:16、詩篇 22:3、ヨハネ 4:24、創世記 3:9)

\* 創造的な力と自由意志を与えられた人類は、自由な心の発露として創造主と靈魂を通わせ合う能力があり、人にだけ創造主を愛し礼拝する能力が与えられた。

キリスト・イエスの本質 (ヘブル 1:3、マタイ 5:48、詩篇 8:5)

\* 人はキリスト・イエスの本質を反映するものとして造られた。

主と同じかたちに

私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。(Ⅱコリント 3:18)

ハーベスト・セミナー「進化論か創造論か」  
アンケートの質問・要望への応答

2005年7月18,19日  
安藤和子

[ 全 体 的 感 想 ]

大勢の方々が熱心にアンケートに記入してくださったことに感謝します。その内容もセミナー会場でひしひしと伝わってきたものと同質で、非常に積極的に学び、応答し、質問されていました。

(1)「目からウロコ」「目が覚めた」という言葉を大勢の方々が書かれ、(2) 天地創造論が信仰の障壁であったのが取り払われ、(3) 創世記1章を半ば無視して聖書を読み、触れないようにしていた方々が主の創造に感動を覚え、(4) 進化論は仮説に過ぎないということを認識し、解放され、(5)『種類にしたがって』創造されたことの重要な意味を理解し、(6) 聖書を言葉通りに受け取る素直さを学び、(7) 神様を信じることと科学を学ぶことが両立するのだと分かり、(8) 宇宙・地球の歴史が1万年以下であることに感激し、(9) 主のなさることは完璧であると再確認し、(10) 神様のみ姿に似せて造られたことに誇りと喜びと感謝を抱き、(11) 愛されていることがわかり、そして、(12) 非常に大勢の方々が、難しい話で大丈夫かなと心配していたが、易しかった、よく分かった、楽しかった、面白かった、と感想を述べ、(13) 他の人にお分かち出来そうと書いておられました。私自身をも含め、それぞれが大きな恵みと祝福をいただいた二日間のセミナーであったことが、アンケートの回答からもよく分かりました。

その一方で、進化論が堅固な土台となって長年培われた知識、考える以前の感性、感覚を抜け出すことの難しさを、言葉として、又言外に感じさせられる質問もありました。具体例で解答をさせていただいて、私自身も含めて、進化論のまやかしに引っかからないで真実と向き合うよう、霊魂共に研ぎ澄ませておくことの重要性を習得したいと思います。改善点その他は、今後の働きの上で参考にさせていただきます。

[ 大 原 則 ]

1) (神学的立場を聞いておられる方が何人かありましたので)「父なる神、子なる神であるイエス・キリスト、聖霊なる神」の三位一体の神を信じ、キリストの十字架の死、復活により罪が赦されたと信じる信仰を持ち、「聖書は創造主ご自身の著書であるから、書かれていることは真理であり、変更してはならない」という信仰に立っています。細部に亘る神学は本質を逸れた話題です。

2) 創造『論』に翻弄されて逆さまの論理に陥らないで戴きたいのは、人間の科学で確かめることで聖書の正しさを証明しようとしているのではないということです。「聖書に書いてあるから正しい」と言ってしまうのもいいのですが、しかし、自然科学をねじ曲げてでも聖書に迎合する理論を築き上げようとしているではありません。現在こうして存在しているという事実があり、その存在に至る道筋は、創造であるか進化であるかのどちらかであるのです。そして、進化したと仮定すると、出口のない矛盾の渦の中で堂々巡りの罫にかかってあがき回ることになるのです。一方、創造されたと考えたと、論理的に理解できることも多く、科学の進歩に伴って解明されると、すでに聖書に書かれていたことを人類は気づいたりします。こうして、人にも分かる科学の言葉で、自分も納得し、人々にも説明するだけなのです。そうすることにより、信仰が胃の腑にしっかり収まり、血となり肉となるのです。

3) 創造論でも進化論でも、正しい観察・実験結果・資料は全て採用し、全く同じものを使って考察するのです。自分の説に一致する資料だけを拾い上げ、一致しない資料を捨てて自説を主張するのは間違いです。今回、このことを説明するためのスライドを、時間の関係で割愛しました。

[ 質 問 & 応 答 ]

全体的なこと

\* 内容が多く、テンポが速いので、筆記が追いつきませんでした。細かい文字が見えませんでした。スライドを減らして内容を少なくする努力をしたのですが、まだ努力不足でした。細かい文字は、出典や画家の名前などを記録のために添えたので、見えなくても良かったのです。お断りすべきでした、済みません。

\* 手話通訳、要約筆記などによる情報保証をする聴覚障害者への配慮がほしいと思いました。温かい思いを与えられた主に感謝します。主は一人一人に特別に目をかけて、別々の思いと使命を与えておられます。難聴の方々への思いやりを与えられたことを感謝して、この思いをどうぞ次のステップに、行動へと踏み出してくださいますように祈ります。

\* 「科学」という言葉の定義を整理してください。  
科学とはしばしば、自然科学—自然を対象にしてそれを論理的に学ぶ学問分野—を意味して使われています。天文学、地球科学（地質学・地震学・気象学など）、生物関連科学（動物学、植物学、生物化学、生物物理化学、生理学、薬理学、薬学など）、化学（無機化学、物理化学、有機化学）、物理学など広範囲に及びます。自然科学の領域では、実験的に、理論的に、事実・真理を追究するのが本来の自然科学です。自然科学以外の科学としては、社会科学（政治学、法学など）、人文科学（心理学、文学、宗教学など）、歴史科学などがあります。進化論は、歴史科学、宗教学に分類されるでしょう。

\* 神はどのような目的で奇形等、障害を持つ方々を造られたのでしょうか？障害や奇形は主の御業ではないというご意見は、当事者にとっては受け入れ難いのでは？ご自分の身長についておっしゃったことと矛盾しているのではないのでしょうか。性同一性障害の方たちをどう見たらよいのでしょうか。人々は、古今東西、障害を持っている人々を「差別」しています。善意の人々は、そのことに負い目を感じるので、障害をまっすぐ見つめない傾向があるのではないのでしょうか。この質問にそれが表れているという気がします。主は愛と義の方です。障害は主の御旨ではありません（ヨブ記参照）。主の御業ではないということ、主の愛が注がれていないということと取り違えてはなりません。アダム・エバが戴いた遺伝子は無傷で完璧なものであったことを忘れないでください。アダムの罪の故に、人類一人残らずに主の御旨でないことが起こってきたし、今も起こり続けています。身体的な障害がなくても、病気や怪我に苦しみ、老いて死にます。悪い思いが心に湧き起こり、鬱病になるほど激しく病む時もあります。私たちは、主の目には一人残らず障害者なのです。だから、イエス・キリストは障害や病気に對し怒りを覚え、障害者や病人をかわいそうに思い、癒されたのです。障害ではなく、主がそれでよいとされている「変異や個性」は、人種、肌や目の色、身長、利き腕の相違等々、数多くあります。様々な変異や個性も人類は少数派を差別の対象にしてきましたし、今もそうです。この差別の根底には、進化論が腰を据えています。かつて、左利きの人は差別されました。今はないと思いますが、実生活上多少の不便はあるでしょう。セミナーで身長のことを言ったのは、うかつでしたが、子どもの時のつらい思い出があるのは確かであり、今は癒されているから言うのですけれども、実生活上で不便がある状況は変わりません。

### 宇宙・地球の始まり・年齢

\* 地球の年齢は1万年以下として、太陽の創造の時期とビッグバンの時期は同じでしょうか？  
ビッグバン説は基本的に進化論であり、数百億年昔に起こったこととされています。主による創造とビッグバンは真っ向から対立する考えです。火の塊の地球が冷えた後に生物が自然発生したとする説は、初めから信じない進化論者も大勢いましたし、今はたぶん殆どの進化論者がビッグバンを否定し、低温発生説を採用しています。

\* 最初の光はどういう光でしょうか？  
私たちは光というと反射的に太陽光だと思ってしまいがちですが、もとより太陽光ではありません。光とは物理学的には、粒子的性質と波の性質の両方を持ったものであると説明されています。「光あれ」は翻訳間に大差はありませんが、問題の箇所は多少差があります。「光があった、光が出来た、光が現れた」という翻訳は微妙に意味の違いがあり、原語はどうか分かりませんが、光が初めからあったという説、光が創造されたという説など幾つかの説があります。興味のある方は、神学をよくご存じの牧師先生にお尋ねになって下さい。

\* 7日目には夕ありきと書かれていないので、現在7日目だという説をどうお考えでしょうか  
これは一日一時代説で、お話ししたように進化が前提の説です。創世記 2:3 で「この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なさったので、第七の日を神は祝福し、聖別された。」と書かれ、2:4 に「これが天地創造の由来である。」と結語になっていることから、創造の御業は厳密には第七日の安息日をも含めて完結されたと理解されます。



\* 「夕となり朝となった」ということは、終わりが「夕」ということでしょうか？太陽が4日目に出来たのなら、第1～3日目までの「夕、朝」は今日の「夕、朝」とは違うはずです。「夕があり、朝があった」と書かれているから一日は24時間だと断定するのは良くないのではないですか？

ヘブル的1日の設定法に従って、「夕があり、朝があった」と書かれているようです。太陽が出来るまでの第3日目までは、それ以後の地球の一日の定義に則って、時が刻まれ、聖書に記述されたのであるというのが、大勢の方々的一致した理解であるようです。一日は24時間であるとする根拠はこれだけではありません。但し、聖書全体をよく読むとこれだけでも十分な根拠ではありますが。

\* Hugh Ross 博士などの見解をどう理解すると良いですか？

これらの説は基本的に進化論です。創造された世界は完璧であり、罪以前に苦しみや死はあり得ません。愛と正義の全知全能の創造主と進化論とは相容れる余地はありません。

\* 地球から天文学的な距離、離れている星も全て人間のために造られたのでしょうか？第4日目に造られた星々は一気に全部造られたのでしょうか？

主の愛の対象は人であり、宇宙・地球・そこに置かれたものは全て、人のために造られました。どれぐらい一気であるかは別にして、第4日目、24時間以内に創造されたと書かれています。

\* 5日目の太陽が、エネルギーの始まりと思っていました。初日の「地」の中にエネルギーが入っている点を、今少し掘り下げてお話くださるとありがたいです。

説明もせずに物質をエネルギーであると言ってしまったことを反省しています。人々はまず、火（熱）をエネルギーと理解しますが、エネルギーは様々に形が変わります。ガソリンは燃えて車を走らす運動エネルギーに姿を変えます。木と木を激しくこすり合わせると、回転（運動）エネルギーが形を変えて、熱エネルギーになります。水力発電は、高いところにある水が下に落ちることで、高いところ「位置エネルギー」が電気エネルギーに変換されます。「地」をエネルギーと言ったことがこれで何となく分かっていただけだと思います。

\* 化石が短時間で形成されること、進化論が宗教・信仰だという考え方は分かります。が、地質学で決定された地層の年代、それに基づいて決定される化石の年代の「事実」を無視できないと考えます。地質学や考古学の全ての学問体系を否定できるのでしょうか。ニュースなどで「350 万年前の化石」などと報道されますが、どんな方法で計測されるのでしょうか？アイソトープを使って正しい年代が測定できるのでしょうか？炭素 14 による年代判定は正確ですか？

「数多くの間違っただけの仮定を設定し、進化論に立って決定した」地層の年代・諸々の学問が正しく事実であると信じ切って、仮定の上に築かれた「空中楼阁の地層の年代」によって、仮定であった「数十億年の進化があたかも事実であるかのごとくに信じる」という堂々巡りが展開しています。結論だけ書きます。まず、地層の生成・化石の生成過程について根本的に間違っただけの前提から出発しており、間違いだらけの年代測定法を使って推定しています。また、化石の年代は地層の年代によって推定され、地層の年代は化石の年代によって推定されている堂々巡りがここにもあります。放射性同位元素法による年代推定は、正しく行えば非常に有効な測定法です。例えば半分になる時間・半減期が5,700年である炭素 14 による測定法は、数千年前くらいまでは正確に測定できます。が、2-3 万年になると誤差が大きくなり、それ以上は数十億年はおろか、数十万年さえ測定は不可能に近いのです。[大原則]に書きました通り、創造を信じる者は、地質学、考古学の研究結果を慎重に検討し、正しい研究結果は採用するのです。

## 進化論

\* 進化の生物学的定義を教えてください。

進化とは、アメーバのような単細胞が、種類の壁を越えて多細胞生物になり、次々と種類の垣根を越えて違う種類の生物になり、遂に人にまでなるという仮説です。～十億年の歳月の中で、環境に適応する能力を持った強いものが生き延び、弱いものは淘汰されるという考えです（セミナーの復習です）。当初は生物の領域における歴史科学として提案されたものですが、意識下、無意識下に社会科学、その他諸々の領域に流用されています。

\* 始祖鳥は結局「鳥」という結論なのではないでしょうか？

再確認しておきます、始祖鳥と名前が付けられた動物は、鳥です。

\* 恐竜の時代はいつ頃なのでしょうか？

恐竜は、第6日(飛ぶ恐竜、水に住む恐竜は第5日)に創造されました。ヨブ(B. C. 600 以後)、詩篇(B. C. 1000 ~以後)の時代に生きていたことが確認されています。そして、約 4,500 年前に起こった地球規模のノアの大洪水、及びその後、地球に起こった様々な激変によって絶滅したのではないかと考えられています。

\* 人類の化石、旧人、原人の化石など、ジャワ原人、北京原人の話など詳しく聞きたいです。北京原人というのは、何に属するのでしょうか？

ジャワ原人は、進化論に感化された若者によって 1891 年に発見されたとされていますが、その証拠とされた骨は、頭蓋骨と、歯と、大腿骨だけでした。この動物は直立歩行をしていたもので、サルと人との中間型であると考えられて、ピテカントロプス・エレクトゥス(直立する猿人)と命名されました。頭蓋骨は大腿骨から 14 メートル離れた所で発見、歯は頭蓋骨から数メートル離れて発見。後にその地層から、今と同じ人類の遺骨が発見されたということです。北京原人の化石と呼ばれたものは、第二次大戦中に失われたので、何だったのか、今では不明です。ヒトの骨とサルの骨とが組み合わされたものだと考える人が多くいます。あったのは、サルと、サルに似た絶滅動物と、人間の化石です。サルと人間の中間は、現在も、又化石としても存在していません。

\* 進化を証明する痕跡器官をどう理解したらいいのですか

昔、どのような役にも立っていないので、ヒトの進化の痕跡器官と決められたものが、科学研究が進むにしたがって、これらが重要な機能を果たしていることが次々と判明し、痕跡器官の数は順次減少していきました。例えば虫垂や胸腺は免疫に重要な役割を果たしていることが分かりました。1890 年には 180 も痕跡器官として数えられていましたが、1999 年にはゼロになりました

([www.answersingenesis.org/tj/v14/i2](http://www.answersingenesis.org/tj/v14/i2))。

\* ノーベル賞受賞の生物学者や多くの優れた学者が、なぜ進化論を支持するのか。中間型の化石の骨が発見されたと学者の意見を権威あるものとしてよく報じられますが、どう思われますか。

進化論は、時代が下るにつれて様々な説が出てきて、進化諸説の花盛りになっており、又非常に専門的で素人に分かる言葉では語られていません。しかし、全ての進化諸説の基本的考え方は、セミナーでも話し、進化の定義にも書いた通りです。世界、地球、そして人間の由来は「進化か、創造か」のどちらかしかありません。創造を信じるのがどうしても出来ない人々は、進化の証拠が必ず見つかるはずだと「信じて疑わない堅い信仰」を持っています。証拠を見つけるために努力している「進化論学者」に期待しており、進化学者はこの信仰の盟主集団であるのです。ノーベル賞は人間社会では大きな権威ですが、絶対者の評価は全く異なっていることがあるのです。進化論研究に高い評価を主が与えられる筈がありません。中間型だという評価は、故意でなければただの判断の間違いです・・・過去に数多くあった間違いと同様に。

\* テキスト 12 ページで、「ノアの洪水は齊一説を根本から否定する」とありますが、これについて分かり易くご説明いただけないでしょうか。

齊一説というのは、宇宙は始まってから今まで大きな変化が起こっておらず、悠久の時間の中で常に少しずつ変化してきて現在に至っているという説です。進化論の土台になっている説であり、地球全体がひっくり返ったノアの洪水とは相容れません。間隙説で2日目以降は聖書に書いてある通りとすると、その後ノアの洪水が起こったというのは論理の破綻です。

\* 学校で進化論を述べた学生に対して、先生は点数をどう付けられますか？

どのような見解を述べるにしても、正しいデータを採用し、筋の通った論理展開をしてレポートを書いているかどうかだけが評価の対象です。考えないで誰かの結論を書いたり、論理展開が出来ていなかったり、千鳥足であったり、結論と矛盾したりしている場合は評価できません。論理的に考える人間に育ってほしいので、講義でも学生たちをそのように指導しています。

\* この宇宙に、地球と同じ天体が他にもあるのでしょうか？先生は宇宙人はいると思われますか？

聖書は創造主による唯一の創造の記録です。聖書のどこにも地球と類似の天体や、宇宙人の存在などは書かれていません。それどころか、この地球がいのちをおく唯一の天体であり、地球に置かれた人は神のかたちに造られ、神の愛の対象として唯一の存在であることが書かれています。

\* Creation Research に対する反論が進化論学者から出ているのをよく見ますが、それに対して反論している先生や、書物があれば教えてほしいです。  
最後に何冊か書籍や WebSite を挙げておきました。参考になさってください。

### 生物・人関連

\* 植物は種が地に落ちれば新たに成長し、葉が落ちて枯れば栄養になります。土中の微生物と一緒に創造されていたか、又は初期の土壌に必要な無機物が十分与えられていれば、長期間でも植物は枯れないのではありませんか？

確かに、すぐには枯れないでしょう。しかし、お話ししたように、植物しか存在しないと、自然界の元素循環・物質循環・再生産過程が円滑に行われません。炭酸ガスは減少し続け、さらに昆虫・鳥類などがいないと、受粉の媒介が順調に行われませんので、長期間植物が生育することはできません。地球は、各種動植物が共存することによって、円滑に維持されるように造られています。

\* 体内時計は 24 時間を前提に講義されましたが、例えば「体内時計が 1 年であった時期があった」とは考えられないでしょうか？体内時計が 24 時間であるとお考えになる理由は何でしょうか？  
現在様々な方法で体内時計が測定されています。実は 24 時間から微妙にずれているという説が有力なようで、それが日々調節されていると考えられています・・・それがどれほど真実に近いかは不明です。さて、敢えて体内時計を 1 年と異説を考えなければならぬ理由は見あたりませんし、1 年単位に時が刻まれるとしたら、健康に生きていけるとは想像も出来ません。

\* 女性の体の構成成分は、骨と同じ比率ですか？  
定量的には異なっていると話したと思いますが、骨は骨、肉は肉、血液は血液、それぞれに異なります。生きているのですから、それぞれにふさわしい比率に調整されるのです。

\* なぜレオポンの 1 代目は出来て、2 代目以降は出来ないのですか？  
動物間で交配した場合、両親の精子、卵子は正常で、この正常な生殖細胞間における受精が可能であるかどうかの問題です。レオポンの 2 代目が出来ないのは、レオポンの生殖細胞が正常に機能していないということで、問題は異なります。レオポンは正常な動物ではないということです。

\* カインは誰と結婚したのでしょうか？  
カインの妻探しは、アダムの後継者・セツの妻探しと同じ命題です。進化論的先入観を追い出して、心を明け渡して聖書を読んで、簡単な家系図を作ってみてください。カインの殺人事件が起こったのはアダムが創造されてから何年後でしょうか？カインはノデの地に追われるときに、殺されることを恐れ、そして主は保護をお与えになりました。つまり、人類は全てアダムとエバの子孫ですから、その頃、すでに数多くのアダムの子孫である人々が地上にいたということです。カインの結婚相手はアダムとエバの子ども、孫、ひ孫等々しかあり得ません。つまり、カインの姉か妹、姪、あるいは甥や姪の娘たちなどです。アダムの後継者、セツの結婚相手の可能性も、カインと変わりません。ちなみに、アダムの結婚相手のエバは、アダムと全く同じ遺伝子を持っていたので、一卵性双生児以上の近縁者です。近親結婚が「近親相姦」という言葉で忌み嫌われるようになったのは、罪が入って遺伝子に傷が付いたためです。好ましくない遺伝情報が近親結婚によって濃縮されると、生きて行きにくい形質を持った個体が生まれる可能性が大きくなるので、ずっと後になって、主が近親結婚を禁じられたのです。

\* 聖書には 900 年以上生きた人のことが書いてありますが、どう理解すればいいのですか？  
アダムは 930 年、ノアは 950 年、生きました。これは比喻ではないかという人々がいます。人間も動物も不老不死に造られました。罪が入った後も、老化の速度は私たちが想像できないほどゆっくりしていたことでしょう。アダムの後継者セツは、アダムが 130 年生きた後に生まれていますし、ノアは 500 歳で 3 人の息子（洪水を生き延びました）を生んでいます。500 歳のノアの肉体は今の 30~40 歳の若さだったでしょう。  
聖書にそう書いてあるから、900 年以上生きたのです。そう答えてしまうと、考えを閉ざされる気がするかもしれません。ただ、聖書に書いてあることを疑うことから始めると、どんどん疑いの根が太く、深く広がって理解できることも理解できなくなります。書いてあるからそうなのだと思って祈ると、不信仰な者にも分かる言葉で教えていただけることがあります。

\* ノアの洪水以後、人間の寿命が短くなったのは、天蓋が落ちたため、放射能が直接地球に降り注ぐようになったためと聞いたことがあります。本当でしょうか？

地球が創造されたときには、地球は上の水にすっぽりと包まれていたと考えられていました。上の水がどのようなものであったかについては諸説がありますが、その全てが固体の水の状態や液体の水の状態であったとは考えられません。もしそうなら、太陽光線が遮断されて、地上に光も熱も届かなかったでしょう。したがって、上の水の大半は気体の水蒸気であったと考えられます（水蒸気は目には見えない気体で、湯気は水蒸気が冷たい空気に触れて液体になったもので、水蒸気ではありません）。有害な宇宙線が地上に届かないように、この水蒸気層も地球を護る役目をしていました。ノアの洪水によって、この天蓋が全て地上に降り注ぎ、有害な宇宙線に対する防御が弱くなりました。これが、直接、間接的に人間の寿命が短くなった要因になっていると考えて間違いないと思われま

\* ノア一家は同じ人種か否か？洪水後に人種が分かれたのですか？

人は元々全てアダムから派生した人類で、ノアはアダムから十代目です。アダムはその後の人類に受け渡される基本的な遺伝子を全て持っていて、それが代々分け与えられてきたのでしょう。ノアの妻はアダムから何代目で、ノアの家系とどのような関わりがあったのか分かりません。その3人の息子、そして息子たちの3人の妻がどのような遺伝形質を持っていた人たちであったか不明です。したがって、ノアの一家八人が、アダムの遺伝子のどの部分をそれぞれ分け与えられたのか、本当は分かりません。言語圏まで含めた意味でのいわゆる人種が生じたのは、バベルの塔の事件(創 11:2-9)の結果です。さて人種という目に見える遺伝的特性—メラニン色素生産量の相違による皮膚の色の違い—が大きな差異として認識されていますが、実は、人種間の遺伝子の差は極めて僅かです。例えば、無作為に二人の人間を比べると、二人の遺伝子の差は 0.2%です。「人種間の」相違と見なされる部分は、このうちの 6%、すなわち僅か 0.012%が人種間で遺伝的に異なっているに過ぎないのです (K. Ham, [www.answersingenesis.org/](http://www.answersingenesis.org/))。私たちがどれほど見た目に騙されるかの良い例です。

\* ノアの洪水についても聞きたかったです。ノアの洪水についてセミナーを企画して下さい。

ノアの洪水については、おとぎ話的取り扱いをされている、或いはそれほどなくても、極めて重要な出来事であったという認識が欠けた取り扱いがされていて、とても気になっています。教会でも、「ノアの洪水の学び」を多くの方々に要望されているのですが、スライドの準備が全く出来ていなくて時間だけが経っています。早く準備が整えられて、地球史、人類史におけるノアの洪水の重要性を話させていただきたいと願っています。お祈り下さい。教材の裏表紙にご紹介した教会のホームページの「聖書と科学」欄のメッセージでは、ノアの洪水はほぼ終わりまで済んでいます。ご参照下さい。

## 罪の問題

\* 人間に罪が入ったので、動物にも死が入ったのでしょうか？「死」は、人間のことを表すと解釈することも出来るのではありませんか？人間が罪を犯す前に動物の死はあったと解釈することも可能ではないですか？動物も罪のために死ぬのなら、なぜ動物にも救いが無いのでしょうか？人の死と動物の死を同一視するべきではないと考えますが。

創造主に背いた後の経緯をじっくり読んでください。罪が入ったので土までが呪われ、植物も動物も呪われたのです。そして、未来の樂園では又造られた時のように、争いのない平和な世界が戻ってくるのです (イザヤ書 11:6-9, 65:25)。この時点で動物も含めて全てが救われると考えられます。人の死と動物の死は、聖書は厳密に区別して取り扱っています。偏狭な動物愛護者から攻撃されるほどです。動物はいのちは与えられましたが、神の霊を受けたものではありません。特別に神の形を映されたのは、人だけです。

\* 人間が罪を犯すまで、人間もライオンなどの肉食動物も、草食だったのですか？歯や爪の形、消化器官も草食向きではないと思うのですが、その後、変化したのでしょうか？

全ての動物は草食するように (創 1:29, 30) 創造されましたし、罪が入った後も、長く草食であったと思われま

すが、ノアの洪水の前、悪が満ちあふれた頃には肉食も起こっていたらろうとは思われます。しかし、主は動物と食糧を船に積み込むようにと命令され (創 6:19-21)、動物を食糧の一部と考えておられた様子はありません。また、後に猛獣となる動物も、兎や羊など弱い動物も全ての動物がノアの箱船の中で1年余りを共に仲良く生活したのです。そして、船から出た後で肉食の許可を与えられました (創世記 9:3, 4)。歯や爪の形、消化器官などについては、あまりにも専門的考察が必要ですから、別の機会にしたいと思いますが、草食向き、肉食向きという「常識」は、相当間違っているとのみ答えておきます。

\* もし人間が背かず、死なないで生物が増え続けたら、地球は動物で満ちあふれ収拾がつかない状態になっていたのではないのでしょうか。

「もし、こうでなかったなら」という歴史をひっくり返す、あり得ない議論は、とても難しく答えにくい問題ですが、・・・創造主に対する絶対的な信頼を回復していただくために、お答えします。

①地球は今とは比較できない豊かな状態でしたから、どれだけ多くの動物を包含できる可能性を秘めていたか不明です。

②生物にどのような機能が備えられているのか、科学技術の進歩によって、何日も延々と語り続けることができるほど多くの情報が、すでに人類に啓示されました。それでも、それは主が下さった機能のほんの一部に過ぎません。創造主がその御業の解明を、むしろ進化論者の手に委ねておいでになるので、学ぶほどに生命体の不思議の深淵に接することが出来、解明されていく驚異的な生物の機能に関する知識が、進化論者の世界に抵抗なく受け入れられています。素晴らしい生命体の特性の一つに、自己制御機構があります。各個体は、それぞれに正常な状態を維持する一行き過ぎない、不足しない一ための見事な機能が組み込まれています。生体の中に備えられている様々な機能が相互に連携しあって、個体の維持が順調に行われるのです。そして、群れも又同様に、生存を脅かすほど数が増え続ける前にブレーキがかかる現象は相当の例で観察されています。完璧な状態に創造された世界で、増えすぎて困る状態が起こったとは考えられません。全ての動植物のバランスが最も適切に維持され続けていったことでしょう。

## 教育

\* なぜ学校で進化論が長く教えられているのですか？創造論が正しいのなら、どうして学校で教えないのか、文部省は取り上げないのか、考え方が一般にも浸透していかないのでしょうか

この質問に応答するには、少なくとも1～2時間は語る必要があります。お互いに真剣に考えたい大きな課題です。特に、クリスチャンが進化論にとらわれている実情は目を覆うばかりです。上の「進化」の項目の記述を参考にしてください。

\* 日本では進化論に基づいた教育しかしていませんが、外国では創造論を教えていると聞いております。

外国の教育について教えていただければ幸いです。子ども向けのビデオなどあるのでしょうか。

アメリカでも進化論は科学で、創造論は信仰という分類をしていて、創造論を教育の場から追い出しました。今、進化論は科学と言えないということで、両方を教えるべきだと大議論が始まっています。子ども向けの優れた教材をほしいと思いますが、私の知る限り多くはないと思います。特に日本語となると・・・これからの課題です。

## 専門的な学びについて

\* 創造の一日、一日、進化論の詳細等、テーマを絞ってお話をお聞きする機会をほしいと思いました。

\* 地層の年代測定法・放射性同位元素による年代測定法を教えてください。

\* DNAの塩基配列の変化、生物による違いについて、ご意見をいただきたいです。

\* 分子レベルの進化論についての問題が触れられていなかったのは残念でした。

\* 宇宙線、紫外線などでDNAが変質し、殆ど劣化・退化する中で、環境に適合して生き延びていく説は、説得力がありますがどう考えればいいのでしょうか？

\* 染色体数が変化していくことは進化論ではどのように考えているのですか？進化論は染色体の壁をどのように説明しているのですか？

\* もっと科学的な根拠・文献を例示して進化論との対立点・最新の進化論を具体的に示してほしいと思った。

\* もっと踏み込んだ内容で、ディスカッションの時間をとってほしかった。

\* 今後機会がありましたら、聖書を信じる者が、今日の反・非聖書的な学問を取り入れた主張に反駁するセミナー（出来れば専門的な講座）をご計画いただきたくお願いいたします。

\* 時、永遠、宇宙空間を思う精神活動の部分をもっと説明してほしいと思った

\* 天文学による宇宙の年齢について知りたい。

\* 地磁気には反転の話もありますが、地球の年齢測定と関連づけられていないのですか？

\* ”Intelligent Designer”の理論を説明や何か資料などを紹介していただければ、大変助かります。

様々な専門的学びを望む非常に熱心な声がかかれていました。信仰と、神学、生物学、天文学、地学、などとの関連の学びは、その志を与えられた方々がご相談なさって、テーマを絞って、それぞれに専門分野の先生をお招きして講演会・学び会を持たれると実り多い時を過ごせると思います。但し、本当にその領域の話を書く知的、精神的、霊的な関心度が高められていなければ、眠いだけで、難しすぎる話になってしまうかもしれません。・・・ちょっと脅かして？みました。

進化論の話を書き、創造について一日、一日を、恐竜の話、化石の出来方など、相当詳細な、しかし、専門的ではない学び会を私の教会で、月1回行いました。そのような地道な学びを非常に歓迎いたします。少しずつ学んでいくことの長所はいろいろありますが、じっくりと質疑応答の時間をとって、納得の段階まで高めることが出来ることもその一つです。教会では「こんなあほな質問をするのは恥ずかしいのですが・・・」と遠慮しながら言われる質問が、しばしば信仰上とても大切なことでした。科学の世界に生きていた人間として、教会でとても気になることの一つは、聖書の学び・信仰の学びが牧師から信徒への一方通行で、殆ど質疑応答がないことです。一方的に教えを受けていて、自分の中で噛みしめ、考え、消化する過程を経ないで自分の血となり肉となることはとても困難であると思います。学びたい人々・場所・時間などが整えられれば、少しずつ、長期的に共に学ぶためのお手伝いは出来ると思います。

生物学関連の専門的な話は、遺伝子、DNA、タンパク質、酵素などが分子レベルで、いかに美しい調和を保つように造られているか、それぞれの分子が与えられた機能を果たすためにどのように複雑で高等な構造を備えられているか、それが分子レベルの進化論を構築するためにいかに悪用されているか・・・分子レベルでさえすでに話題は相当あります。光合成によって地上のエネルギーがいかに見事に全体的に統率されているか等、もし話を聴きたい方々が集められれば、喜んでお話しさせていただきます。(今度10月の講演では、高校生たちに分子レベルの進化論の入門編を話す予定です)。

天文学、地学・地層などの専門的な話は、人数が集まりそうなら、それぞれ専門家をご紹介します。

進化論だけに焦点を当てて学ぶ専門的集会はどうか？進化論はどのような説を立てても間違いであることを検証するために、非常に専門的に進化論を学びたいければ、まず新しい進化論仮説を本から学べることを薦めます。これら進化論仮説は、非常に難解であり、また互いに他の説は正しくない、少なくとも不十分だと言っていると思ってください。私たちがしっかり脳裏に刻み込まなければならないことは、「進化論仮説の本質の間違い」であって、細部に惑わされてはならないと思うのです。

日本に福音が届くための土壌がしっかりと耕されますよう、共に祈りたいと思います。

「耕地を開拓せよ。いばらの中に種を蒔くな。」(エレミヤ 4:3)

「別の種はいばらの中に落ちたが、いばらが伸びて、ふさいでしまった。」(マタイ 13:3-8)

\*\*\*\*\*

#### 参考書・文献

- \* 「進化論の迷走」 宇佐神 正海著 ('96, ¥1500)
- \* 「起源→近代科学と私たち」 宇佐神 正海著 ('04, ¥980)
- \* クリエーション・リサーチ (旧創造科学研究会) の季刊誌 (バックナンバーも有り。お薦めです)
- \* 「進化論の争点・進化は本当に起こったか？」 シルビア・ベーカー著 ('92.第4刷, ¥1200) (絶版か?)
- \* 「創世記の記録」 ヘンリー・モリス著 (現在絶版、近日中出版予定)
- \* 「人類の起源」 マービン・ルベナウ著 ('96, ¥1900) 専門的
- \* 「偽りの構図」 ケン・ハム著 ('96, ¥2000)
- \* 「アンサーズブック」 ケン・ハムら共著 ('04, ¥1890), (20の質問への回答)
- \* 「創造論の世界」 久保有政著 ('99, ¥1700+税)
- \* <http://www.tcc-keihan.org> 「聖書と科学」欄 安藤和子執筆・朗読。(ショートメッセージです。進化論の間違い、創造、ノアの洪水など、現在89項まで。続行中)
- \* <http://www.answersingenesis.org> (情報の宝庫です。英語が読める方は是非、開いてください)
- \* <http://www.sozoron.org> クリエーション・リサーチ・ジャパンのサイトです。
- \* 何冊かの書物の書評を尋ねておられましたが、読んでおりません。ざっと目を通して良いと思いましたので、2-3ヶ月のうちにお返事できるようにしておきます。問い合わせのメールを下さい。質問なども、ありましたらこのアドレスにどうぞ。 E-mail: [kazuko.ando@kyotoiu.org](mailto:kazuko.ando@kyotoiu.org)



無断複製・転載を禁じます

2005年7月（東京、大阪）開催